



新病院に向けて

看護部長から



リレーメッセージ

ここに看護のドラマがある！～未来を築く21世紀的看護を目指して～



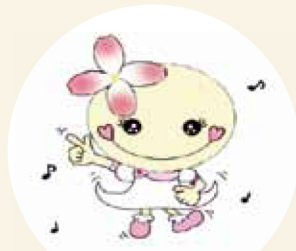
平成27年の開院まで1年弱となり、いよいよカウントダウンが始まりました。尼崎病院・塚口病院療看護部では、3年前より合同会議を持ちながら、新病院の看護の軸となる内容を検討しています。“尼崎病院、塚口病院という病院はもうないのだ。2つで1つの病院なのだ”という院長の考え方の基に、着実に“こころ”が1つになってきています。両病院の伝統を尊重しながら、新たな文化を形成するプロセスは、笑いあり、激論あり、涙(?)あり、“生まれる”ための貴重な体験になっています。

新病院では、21世紀的看護体制と看護教育のモデル病院を目指しています。人口動態の変化に伴い、医療提供体制が大きく変化する中で、21世紀的看護体制のキーワードは“チーム医療”です。医療者と患者さんがチームを組んで、専門性を活かし協働することで、患者さんの望む目標にいち早く進む

ことができます。医療チームでの看護師の役割は、患者さんに寄り添いながら、最も身近な医療人として、適切なアドバイスし、チームコーディネートをしていくことだと考えています。それを実現するために、“ぐんぐん伸びるだけのこ型キャリアパス”をツールに、自由な発想と探求心を持ち、チームマネジメントができる看護師の教育に力を入れて行きたいと思っています。

新病院は、11階まで鉄骨が生まれ、外観から夢と希望が伝わってきます。夢と希望の光を看護のこころに込めて、看護のドラマを創って行きたいと思っています。

県立尼崎病院 副院長 兼 看護部長 平山ミツヨ
県立塚口病院 副院長 兼 看護部長 箕浦 洋子



看護師 マスコットキャラクター
あまいるちゃん

次号予告

次号は、「県立尼崎病院 佐藤慎一 副院長
(救命救急センター準備担当)」からのメッセージです。